

腫瘍見つかるケースも

身近に起こりやすい鼻血や鼻づまりだが、長引く場合は注意が必要だ。鼻の中に腫瘍ができているかもしれない。進行すると手術が困難になり、命に関わる恐れも。獨協医大病院耳鼻咽喉・頭頸部外科の金谷洋明医師は「2週間以上続く時は耳鼻咽喉科を受診してほしい」と呼び掛ける。8月7日は「鼻の日」。

(小林睦美)

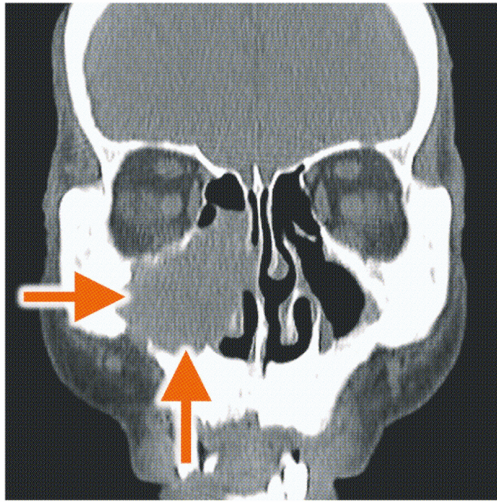
金谷医師によると、鼻血や鼻づまりは鼻炎や副鼻腔炎(蓄膿症)による場合が大半だが、頻度は低いものの、腫瘍が見つかるケースがあるという。腫瘍は良性と悪性に



金谷洋明医師

腫瘍は良性と悪性に
分けられ、いずれも進行すると周りの組織を巻き込み、切除が難しくなる。特に悪性(がん)の場合、肺や肝臓、まれに脳への転移も起こす。

8月7日は「鼻の日」



鼻の奥に大きな腫瘍(がん)が見られるX線CT画像

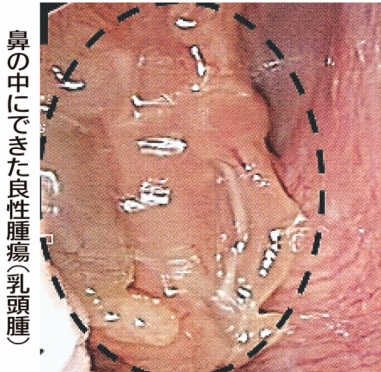
長引く鼻血、鼻づまり注意

腫瘍がかなり大きくなると顔が変形したり、目が開かなくなったりして深刻化してから受診する人が多い」と金谷医師。

患者の中には、6、7歳の腫瘍を切除するため、10時間以上に及ぶ上あごの摘出手術を余儀なくされた高齢の男性もいたそうだ。

金谷医師は「耳鼻咽喉科用の内視鏡で鼻の中を見てもらえば、外

放置せず専門医受診を



鼻の中にできた良性腫瘍(乳頭腫)の内視鏡写真

鼻に発生する腫瘍はさまざまだが、10代でみられることもあるし、高齢者にもある。高年齢者にできることもある。女性より男性に多い傾向があるという。

悪性の場合、腫瘍の進展に伴い、鼻血と鼻づまりは徐々に悪化していくのが特徴。組織が壊死することで悪臭を伴う、どろっとした茶色い鼻血に変わっていくことが多い。

ごく初期なら内視鏡手術が可能だが、一般的には長期間の治療を要する。抗がん剤などの薬物療法と放射線治療を併用し、外科手術となるからだ。

鼻、耳、のど 無料で相談

宇都宮で31日

日本耳鼻咽喉科学会
県地方部会は31日午前
11時～午後4時、宇都
宮市宮園町の東武宇都
宮百貨店4階駐車場入
り口で「鼻の日」無料
相談を行う。

佐野厚生総合病院の
角田真弓医師、自治医
大の川田和己医師、獨
協医大の柏木隆志医
師が鼻、耳、のどに関
する相談に応じる。受
け付けは午後3時半ま
で。